



各事業所より皆様へメッセージ

FL 本社

東日本大震災により日常生活に様々な影響が出ている中でサービスの活動、大変感謝しております。従業員皆様のご尽力により、今年度を無事に終える事が出来そうです。新年度も『魅力ある会社づくり』に尽力して参りますので、皆様の御支援と御協力を引き続きお願い致します。

FL 横浜

3月11日、東日本大震災が発生しました。混乱の中、スタッフが一丸となってお客様の安否確認を行い無事を確認する事が出来ました。お客様からは「地震でもヘルパーさんが来てくれた、ありがとう」の言葉を頂きました。今後もお客様に信頼して頂ける様スタッフ一同協力して行きたいと思っております。

FL 川崎

震災後余震が続く中、日々のサービスお疲れ様です。今年度を無事に終える事が出来た事をスタッフ一同心より感謝とお礼を申し上げます。新年度は「強い団結力」と「更なる向上」を目標に共に歩み邁進して頑張りたいと思っております。今後共宜しくお願い致します。

FL 鶴見

ゴールデンウィーク間近、お仕事お疲れ様です。3月11日の大震災では皆さん大変な思いをされたと存じます。FL 鶴見としても今回の災害で浮かび上がった色々な課題について検討して緊急時に備えて参ります。停電等の影響で事故も増加した様です。交通事故にも十分注意される事をお願い致します。

FL 洋光台

ヘルパーの皆様お疲れ様です。また、この度東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。今期のFL 洋光台は大飛躍を遂げる事が出来ました。これも皆様の献身的な訪問の積重ねの結果でありスタッフ一同心より感謝申し上げます。港南区の独立を目指し着々と準備を進めております。来期も更なる御協力を宜しくお願い致します。世の中大変な時期ですが『思いやり』の精神で頑張ります。

FL 本郷台

ヘルパーの皆様日々の活動お疲れ様です。事務所の前の桜が満開の頃、本郷台にも2名のスタッフが加わり、ますます賑やかな事務所となりました。スタッフ一同全力で頑張りたいと思っておりますので、皆様ご協力の程、宜しくお願い致します。

FL 保土ヶ谷

日々のお仕事お疲れ様です。3/11 東日本大震災が発生し、ヘルパーの皆様には御苦労並びに御協力を頂き大変感謝申し上げます。FL 保土ヶ谷では3月より小島(事務)が新たに加わり、スタッフ一同より一層業務に励んでいきたいと思っております。ニューフェイスの多いFL 保土ヶ谷ですが、皆様どうぞ宜しくお願い致します。

FL 関内

日々の活動有難う御座います。昨年の9月に開所し、まだまだ至らない点が多々あると思っております。皆様の御協力もあり、御蔭様で年度末を迎える事が出来、スタッフ一同心から感謝しております。新年度より新スタッフも加わり、心機一転力を合わせて頑張ります。これからも宜しくお願い致します。

FL 横浜夜間対応事業部

ヘルパーの皆様には日頃の活動に大変感謝を致しております。今年は雪や地震など自然の脅威を感じさせられる中、皆様の明るさ、責任感の大きさにスタッフ一同勇気づけられる思いで一杯です。新年度もこのチームワークで困難を乗り越えていける様協力し合っていきましょう！

□ 介護の知恵袋 □



このコーナーは知っている様で知らない介護等の知識についてご紹介いたします。今回は老人性難聴について簡単に紹介いたします。



老人性難聴とは

人間の聴器の老化は、20~30歳代から始まると言われ、この加齢によって起こる聴力の低下を老人性難聴と言う。老化は、内耳感覚器から脳の聴覚中枢までの神経細胞の減少や変性として出現しますが、その程度は人によって様々で大きな個人差があります。

症状

老人性難聴は、高音部から始まり、徐々に中低音部も聞こえにくくなりますが、初期には特に自覚症状はなく、中音域の聞こえが悪くなり日常会話に支障が出る様になって初めて難聴に気づきます。実際には、音は聞こえているのに何を言っているのか分からないとか、聞き間違いや聞き返しが多い等の言葉の聞き取り障害として現れます。また、耳鳴りで老人性難聴に気づく事もあります。

検査

聴力検査で高音域が聞こえにくくなることから始まる感音難聴を示し、進行すると中低音域の聴力も低下します。難聴は内耳性と中枢性の両方の性質を持っていて、聴力に比べて言葉を聞き取る能力が悪いのが特徴です。

治療

老人性難聴に決め手となる治療法はなく、補聴器の装用が勧められるが本人に難聴の自覚があまりなく、使用されないケースも多い様です。動脈硬化、腎臓病、糖尿病といった慢性的な病気は老人性難聴を進行させる可能性があります。老化を防ぐために、日常の健康管理と精神安定に気をつける、耳に悪影響を与える騒音や薬剤の使用は出来るだけ避けるようにしましょう。

【参考資料：耳と鼻の病気ナビHP】

○ 簡単お料理レシピ ○

簡単に作れておいしい料理を紹介致します。皆様も是非お試しください！！

メニュー：赤魚鯛のホイル蒸し

材 料：赤魚鯛粕漬け...人数分
長ネギ...適宜、椎茸...適宜
アルミホイル、ボン酢

作り方：

赤魚鯛の粕漬けは、キッチンペーパーで酒粕を拭いて、お腹の辺りにメ字に切り込みを入れる。

長ネギは食べやすい大きさに斜め切り、椎茸は石附を外しておく。

アルミホイルに を置き、上に を載せて包む。

フライパンに を入れ、2cm程度水を入れ、蓋をして中火で15分程度蒸す。

蒸しあがったら皿に盛り、ボン酢をつけて頂く。



フルライフ 関内
武井 恵



介護福祉士国家試験対策実技直前講習会を実施しました！！



平成 23 年 2 月 21 日(月)にフルライフの従業員を対象とした介護福祉士国家試験対策実技直前講習会をウィリング横浜(上大岡)10 階の介護実習室にて行いました。数多くの介護福祉士受験対策講習会等で指導されている久保田 紀子氏(楽々の会 介護技術研究会)に講師を務めて頂き、『介護福祉士 2 次試験(実技)対策』をテーマに行いました。実際の試験日が迫っていたこともあり参加者の眼差しは真剣そのもの。講習会場は緊張感と参加者の熱気で溢れていました。参加者からのアンケートでは「講師の熱心な指導が良かった。実際の試験では落ち着いて望みたい。」等数多くの意見が寄せられました。今後も可能な限り従業員皆様の要望にお応えできる講習会や研修を実施して参りたいと思います。

【参加者数】

1 部 20 名、2 部 25 名(合計 45 名)

【アンケート結果】

* 評価基準「満足」、「良い」、「普通」、「やや不満」、「不満」の 5 段階

- ・講師について 「良い」以上が 95%を超える評価
- ・内容について 「良い」以上が 95%を超える評価
- ・資料について 「良い」以上が 85%を超える評価



🌸 新年度に向けてのごあいさつ 🌸

3 月 11 日の東日本大震災は福島原発事故という人災も重なって今は終わりの見えない未曾有の大惨事となりました。被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈りたく思います。大自然に恵まれ農、林、水産業に限りない将来性と発展性がある上、豊かな観光資源にも恵まれた東北地方の宝の大地と海が、一瞬のうちにガレキと化し、汚染地帯となって人々の生活さえもが危険に晒されるとは、今さらながら自然の恐ろしさを痛感させられた次第です。幸いにも今回は被害を免れた私達もこの大災害を教訓とし自然との関わりを今一度考え直し、何事もおごらず謙虚に生きて行きたいものです。さて、この様な時期ですから控えめにさせて頂きませんが、フルライフは今年も充実した一年を送る事ができました。皆様の変わらぬ頑張りの結果です。有難う御座いました。介護業界も来年の大改正を見据え、今急ピッチで準備が進められています。次回の改正の一番の特徴は地域密着型サービスの更なる充実や介護予防事業の再編等市町村が地域の状況により指導力を発揮し、サービス活動を効率化していく点にあります。訪問介護は従来のサービス体系をより効率化する為に、短時間の「巡回サービス」が主流になると予測されます。介護技術レベルアップ、サービス活動のスピードアップ等、私達も今年は本来のサービスを展開しながら新制度に適合すべく準備をせねばなりません。ヘルパーの皆様には更なるスキルアップと制度理解の為に、何度か研修や連絡会に参加して頂くこととなると思いますが、その際はどうぞ宜しくお願い致します。皆様方の働く環境の改善に全力で取り組みながらフルライフは今年も頑張ってる所存ですので、一年間更なる御協力と御鞭撻を重ねてお願い致します。

代表取締役 植田 昭憲

**介護福祉士国家試験
合格おめでとうございます！！**

今年の 1 月に実施された第 23 回介護福祉士国家試験の合格発表が 3 月末に行われました。今年は約 400 名受験者数が増加した一方、合格者数が減少となりました。弊社からは 5 名(申告者)が合格されました。おめでとうございます。

第 23 回介護福祉士国家試験合否状況

受験者数： 1 5 4 , 2 2 3 人(153,811 人)

合格者数： 7 4 , 4 3 2 人(77,251 人)

合格率： 4 8 . 3 % (50.2%)

()は第 22 回の結果です。

(財)社会福祉振興・試験センター
厚生労働省

編集 🦜 後記

この度の東日本大震災に際し被災された方々、関係者の皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。大震災の影響で新年度を気持ちよく迎えられない今日この頃、皆様どのようにお過ごしですか!!大震災当日は首都圏でも交通・通信網がダウンし帰宅困難者が出るなど大混乱でした。大震災から 1 ヶ月経過後も首都圏で余震を観測する等、不安な日々を過ごされているという方が多いのではないのでしょうか。今回の戦後最悪の大惨事は死者・行方不明者が 2 万 5,000 人を超え、『地震・津波・原発』のトリプル災害と言われています。被災地の一日も早い復興を願いたいものです。「天災は忘れた頃にやってくる」という古い言葉がありますが、今回の大震災を教訓に防災について真剣に 1 人 1 人が考え、備えておく必要があるのではと強く思いました。皆様もご家族と一緒に防災について話し合ってみては如何でしょうか。まだまだ不安な日々が続きますが、お身体にはくれぐれもお気をつけ下さい。

